

【住民参加企画】

まちのこえ



～広報広聴委員が聞く～



～「みんなで支える安心な町づくりを～ RUN 伴（ランとも）」～

今回は、RUN 伴（ランとも）十勝エリアの実行委員長で『老人保健施設あかしや』の濱攻之さん、協力事業所の一つである『幕別町地域支援ネット』の直江裕子さんからお話を聞かせていただきました。

Q：「RUN 伴」とは何ですか？

A：もともとは「ラン・トゥモロー」から作った言葉です。「明日へ向かって走ろう」といった意味が込められています。これまで認知症の方と接点がなかった地域住民の方も、認知症の方やその家族、医療福祉関係者が一緒になってタスキをつなぎ、日本全国を縦断するイベントです。「NPO 法人認知症フレンドシップクラブ」が運営主体で、今年は宗谷岬を7月1日に出発し、11月25日に沖縄でゴールする予定となっています。
認知症の方は、「いつまでも自分らしくいたい…」そんな思いや、周りの方々には、認知症についての理解を深めていただけることを目指しています。

Q：今年の町内での様子をお聞かせください。

A：SNS や回覧板等で呼びかけ、7法人の事業所から80名、6チームで参加しました。その他、趣旨に賛同していただいた方のTシャツ購入も70名ほどあり、計150名にのぼりました！
年々、そのつながりが「広がっていく」だけではなく、地域の方に浸透していくことで、つながりが「太く」なっているのを感じています。

Q：町内での今後の活動における目標や夢をお聞かせください。

A：楽しみながら、いろいろな方とつながっていききたい。幕別町は、人口規模などを考えても、そのつながりが広がり強くなることに適している地域です。認知症は他人事ではなく、自分事です。「自分が認知症になっても安心できる町を、自らつくっていききたい。」と思っています！

（聞き手 谷口和弥 小田新紀）



濱さん（左）と直江さん

編集後記

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆さんは、どの秋を堪能されていますか。今年は大変な秋でもありました。地震による長時間の停電、台風の接近によるJRの運休など、お祭りや催しの延期・中止と、例年になく影響が出ています。

天候など仕方の無いことではありますが、町民の方が被災されないよう、議会としてもしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

荒 貴賀 若山和幸

議会広報広聴委員会

委員長 小島智恵 副委員長 寺林俊幸
委員 荒 貴賀 小田新紀 内山美穂子
若山和幸 小川純文 野原恵子
谷口和弥

〇お知らせ

図書館で会議録の閲覧ができますので、ご利用ください。

議会を傍聴して

緑町 中田 雅史

幕別町に転勤して3か月がたちました。今回タイミングが合い、平成30年度第3回定例会の一般質問を傍聴させていただきました。

昨今話題のワーク・ライフ・バランスや、コミュニティ・スクールに関する熱心な質疑応答が行われ、質問する側、答弁する側とも、その真摯な姿勢に、お互いの幕別町への強い思いが込められているようでした。

今後も町政の動向に興味を持ち、私なりの理解・協力を深めていきたいと思えました。

